



J. F. OBERLIN

次世代哲学教育研究会 第3回会合

「学位プログラムと哲学教育のカリキュラム」

学修成果とディプロマポリシーにもとづいた
学位プログラムの改善：哲学思想分野を事例に

桜美林大学リベラルアーツ学群

田中 一孝

2018.3.27

1. 目次

1. 背景と目的

2. これまでの活動

3. 哲学思想系メジャーの教育の現状

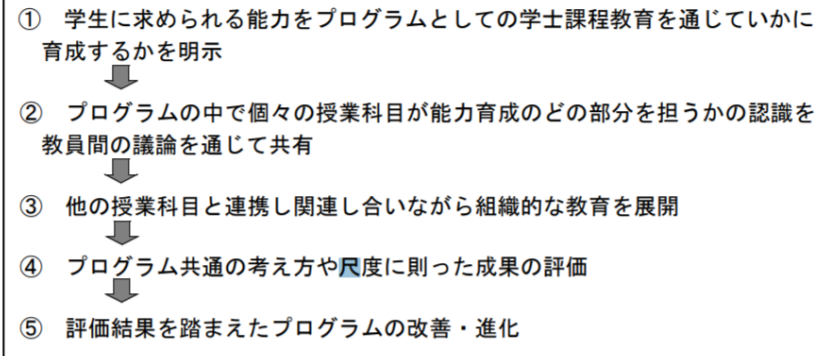
4. 学位プログラム改編の方向性

5. 今後の課題

1. 背景と目的

1. 「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて（答申）」（2012）

- 学位プログラムは、ディシプリンを構成するコンテンツをベースとするべきではない。各科目はディプロマポリシー（DP）を支えるために存在する。
- DPのもとに学位プログラム改善のサイクルを確立する必要。
- 学長を中心として、副学長・学長補佐、学部長及び専門的な支援スタッフ等のチームによる教学マネジメント
- カリキュラムマップ、カリキュラムツリーの整備



中央教育審議会大学分科会(112回)資料「学位プログラムを構築するための大学ガバナンスについて」(2013)より

2. 「大学教育の分野別質保証のあり方について」（2010）

- 分野別の学位編成の「参照基準」：各専門分野の固有の特性を踏まえた、教育課程編成上の基準
- 「学士力」議論を補う
- 「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準 哲学分野」（2016）

1. 背景と目的

3. チューニングプロジェクト

- 各学問分野において尊重し共有すべき緩やかな共通規範を大学や各専門分野が協同的に定めていく
- ボローニャプロセスを補う教員主導の「ギルド的」な運動
- 「学習成果」を学問分野別に定義→学位プログラムの体系的な整備

- ①各学問分野の教育に関わる専門家とそのコア(分野のコア概念、測定可能な学習成果)を定める
- ②卒業後のキャリアパスを明らかにする
- ③ステークホルダーを同定した上で彼らと協議
- ④ステークホルダーのフィードバックを受けて学問分野のコアを再定義
- ⑤各大学における学位プログラムの設計・改善

Institute for Evidence-Based Change (2012) http://degreeprofile.org/press_four/wp-content/uploads/2014/09/Tuning-Higher-Education-The-Process.pdfより

4. 哲学思想系カリキュラムの編成の現状

- 研究はほぼ無いと言ってよい。教授会において「肌感覚」で決まっている？
- 学修成果ベースの議論もほぼ無い。

1. 背景と目的

- **桜美林大学の状況**

- **学群制**

- **リベラルアーツ(LA)学群、健康福祉学群、ビジネス
マネジメント学群、芸術文化学群**
- **LA学群に36のメジャー**
- **そのうち、哲学思想系4メジャー（哲学、倫理学、
キリスト教学、宗教学）**

- **2020年よりLA学群を学類化の計画**

- **メジャーの偏りをなくし、よりLAらしい教育を推進**
- **哲学思想系4メジャーは人文系学類に編入予定**
- **カリキュラムを再編し、改善するための大きな機会**

1. 背景と目的

- 本発表の目的

桜美林大学 哲学思想系メジャーの
学位プログラムを事例に
学位プログラム改編の方法を考える

2.これまでの活動

1. 哲学の学修成果の策定

- ステークホルダーへのインタビュー
- 先行研究のサーベイ：・Wright and Lauer (2012)、
「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準：哲学分野」、諸大学が公表している学修目標
- 15項目、3共通因子（哲学的議論構築力、哲学的知識、哲学的態度）の「哲学的能力尺度」

2. 哲学的能力尺度の普及

- 2017年の関西哲学会でのワークショップ（学会誌に報告が掲載予定）
- 尺度を活用した学位プログラムの改編

哲学的な能力尺度

哲学的議論構築力	自分や他者が議論しているときに、それぞれの意見がどこで食い違っているのかを指摘できる
	自分や他者が議論しているときに、それぞれの意見の良い所と悪いところを比べることができる
	自分や他者が議論しているときに、これまでに無かった新しい意見を付け加えることができる
	他者の意見に優れた点があれば、それを伸ばす手伝いができる
	他者の意見に論理的な欠点があれば、それを直す手伝いができる
	他者の意見を再現したり、紹介するのが得意だ
	新しく覚えた知識や考え方を、別の知識や考え方と混ぜたり組み合わせるのが得意だ
哲学的態度	自分にとって難しい言葉や概念に接すると、それについて調べたいと思う
	文献資料を読む際、わからない言葉があれば徹底的に調べる
	答えがなかなか出ない問題でも、時間をかけて考えぬくことができる
	ディスカッションをする際、他者に自分の考えを批判されることに抵抗を感じない
	文献資料を読む際、理解できない考え方が見つければ、それが理解できるまで考える
	何かを論じる際には、自分の主張だけでなくそれを支える理由もセットで考えている
哲学的知識	哲学の様々な分野の区分についてよく知っている
	現代の哲学的な問題をよく知っている
	過去の哲学者の考え方をよく知っている

3. 哲学思想系メジャーの教育の現状

- 内部資料のため割愛

3. 哲学思想系メジャーの教育の現状

- キリスト教系科目は必修
- 8年間は科目を廃止できない (GPA 1.5未満は卒業不可)

科目A(8年間)

科目設置時入学

留年

科目設置4年目入学

留年

- 研究型大学の特色が色濃く残る
 - 概論、特論、etc.
 - しかし講読系の科目が少ない
 - 聖書神学・歴史神学に重き (vs 実践神学)

4. 学位プログラム改編の方向性

- 新規科目はあまり設置できない
- 哲学と倫理学の合併の検討
 - DPの「自己管理能力と社会的倫理観」に対応
 - 学群全体に「論理的思考能力」「倫理観」の科目を提供
- 宗教学とキリスト教学の合併の検討
 - キリスト教系大学としての機能を強める
 - 必修科目との連続性
 - 多宗教系の科目の設置

4. 学位プログラム改編の方向性

• 哲学的能力尺度との関連

– 高い項目

- 哲学的知識全般

– 低い項目

- 他者との比較、相互批判
- 「何かを論じる際には、自分の主張だけでなくそれを支える理由もセットで考えている」
- 「自分にとって難しい言葉や概念に接すると、それについて調べたいと思う」

→知識系の科目を削り、従来には無いような、「ミニ演習・プレゼミ」、「分野に特化したエッセイライティング」の科目を構想する必要？

5. 今後の課題

- **評価方法の確立（尺度はそのままでは使えない）**
 - 尺度に対応した問題の開発？
 - 能力の伸長を尋ねる
- **新たな学位プログラムについて、ステークホルダーの評価を受ける**

文献

- American Philosophical Association (1995) , "APA Statement on Outcome Assessment", Proceedings and Addresses of the American Philosophical Association, 69 (2): 94-94.
- — (2009), "Proposal for Statement on Outcome Assessment, Proceedings and Addresses of the American Philosophical Association, 82 (5): 80-89.
- Wright, Ch. W. and Lauer, A. (2012), "Measuring the Sublime", Teaching Philosophy 35-4: 383-409
- 中央教育審議会 (2008) 「学士課程の構築に向けて (答申)」
- 日本学術会議 (2010) 「分野別質保証のあり方について (答申)」
- — (2016) 「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準：哲学分野」
- 藤本学・大坊郁夫 (2007) コミュニケーション・スキルに関する諸因子の階層構造への統合の試み. パーソナリティ研究, 15, 347-361.
- 平山るみ・楠見孝 (2004) 批判的思考態度が結論導出プロセスに及ぼす影響：証拠評価と結論生成課題を用いての検討. 教育心理学研究, 52, 186-198.